

オーストラリアと世界全体のスマートフォン市場を比較。数字からも、オーストラリアに『スマートフォン旋風』が起こっているのが分かります。

## 世界とオーストラリア

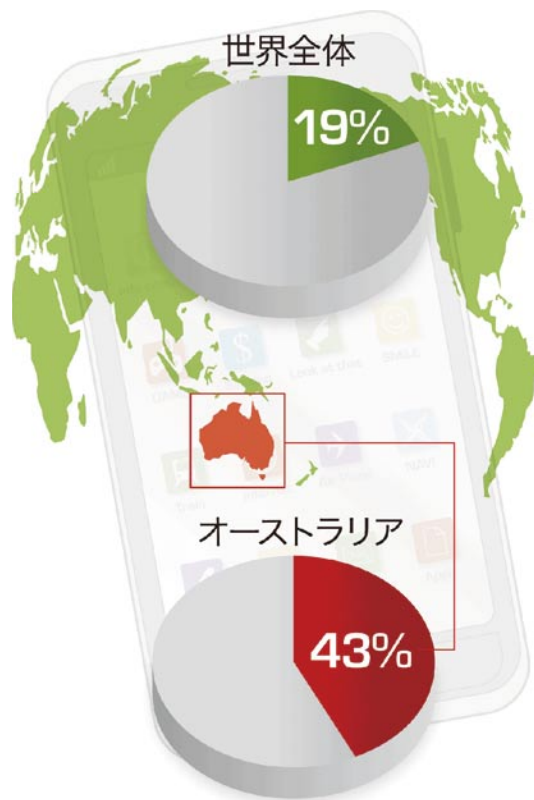
オーストラリアでは、国内の携帯電話販売台数のうち『スマートフォン』の占める割合が、2008年には7%程度だったのが、2010年には43%にまで急成長しています。同じ2010年、世界での『スマートフォン』販売台数の割合が携帯電話全体に対して19%だったことを考慮すると、オーストラリアでは他国に比べて、かなり『スマートフォン』の人気が高いことが分かります(図3参照)。

オーストラリアの『スマートフォン』市場においてOS単位で比較すると、2002年からSymbian OS (Nokia社)が独走し、2010年6月の時点でも全体の43.9%でトップを占め、2008年にオーストラリアに参入したiOS (Apple社)は、その時点で36.3%の2位でした(図4-1参照)。しかし、わずか数ヵ月後の2010年末には、iOSがSymbian OSを抜いて国内スマートフォン売上げトップの座につき、2011年3月の市場では、iOSが35.2%、Symbian OSが25.3%となっています。また、2010年6月の時点でわずか4.2%だったAndroid OS (Google社)が、2011年3月の時点では29.8%までシェアを伸ばし、iOSに次いで2番目のシェアを獲得していることも注目に値します(図4-2参照)。

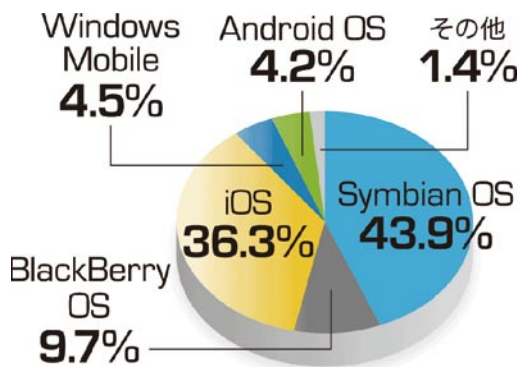
世界市場では、2010年6月の時点でBlackBerry OS (RIM社)が32.5%、iOSが21.1%、Android OSが19%との順でしたが、わずか半年で1位と3位が逆転し、その後2011年3月の時点ではAndroid OSが54.7%、BlackBerry OSが10.6%となりました。

(注：オーストラリアと世界の『スマートフォン』販売台数は、マーケティングリサーチ会社のKantar Worldpanel社 (www.kantarworldpanel.com) が2011年4月に発表した数値を参照)

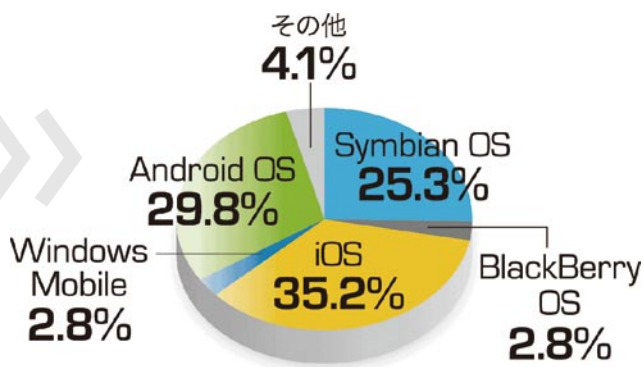
【図3：携帯電話全体に対するスマートフォン販売台数の割合 (2010年)】



【図4：オーストラリア国内におけるOS単位でのスマートフォン市場のシェア】



〈図4-1：2010年6月調べ〉



〈図4-2：2011年3月調べ〉